


ESDユニバーシティ

取組開始時期	2021年8月	取組の カテゴリー	教育・研究	応募部門 (○を付ける)		PF会員間連携部門	○	一般部門
---------------	---------	----------------------	-------	-------------------------	--	------------------	---	-------------

1. 団体名	一般社団法人 社会デザイン協会	2. 連携先の 団体	◎株式会社リコー◎株式会社オプティム◎株式会社JOINX◎富士商工会議所青年部◎関東経済産業局静岡県よろず支援拠点コーディネーター◎NPO法人 新しい公共のカタチthe Fourth、◎(株)毎日教育総合研究所(日本ニュース時事能力検定協会)、◎一般社団法人ALFAE
---------------	-----------------	-----------------------	--

3. 取組 目的	「Edテックベース社会デザイン」を起点とした日本発共生社会の風を起こすヒト・モノ・環境	4. 関連する ゴール	
---------------------	---	------------------------	---

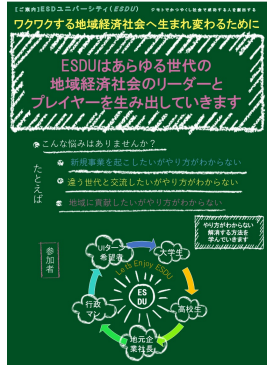
5. 取組経緯

地方創生SDGs官民連携プラットフォームの「地域人材育成のための分科会の中で、SDGs 社会デザイン学というカリキュラムを構築。そのカリキュラムを提供する場として、株式会社リコーが関与しているアフタースクールにて提供。その後、株式会社JOINXが提供しているコワーキングスペースにてSDGs 社会デザイン学ほか、地域づくりのカリキュラムを提供し、地域人材を生み出すことを目標とした協力関係を築いた。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

ジモトでかつやくし社会で成功する人を創出する学校兼地域交流拠点を形成し、SDGs 社会デザイン学を中心とした地域人材を育成し、持続可能な地域づくりを行う

画像（会員投票の際のサムネイル）



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

持続可能な地域づくりのため、誰一人取り残さない質の高い教育を提供し、地域人材を育成し、循環型の地域を作る風の目を作り出す。

ステークホルダーとの連携

持続可能な地域を作るためには、パートナーと連携しながら、①カリキュラム開発、②学び場、③人、④行動契機が必要になる。その①～④のすべてにおいて、連携関係を築いている。また、教育の質を高めるため⑤アプリ開発が必要になり、連携関係を築いている。

モデル性・波及性

ビジネスモデルは、学校としてカリキュラム提供による学費収益。及び、地域社会デザイン士資格収益。及び、TSPモデル電子テキスト提供による収益。



7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）



・取組の詳細及び取組によって得られた（得られる）成果：最低各都道府県に1つ以上を作ることにより、各地に地域人材を創出し、地域分散型の自立した地域づくりを実現。また、地域人材ネットワークを各地から全世界に広げることにより、広い視野を持った地域人材が多く創出される。

・ステークホルダーとの連携体制：①カリキュラム開発：SDGs社会デザイン学（社会デザイン協会）・農業教育（ALFAE）・ニュース時事能力検定教育（毎日教育総合研究所（日本ニュース時事能力検定協会））、②学び場：株式会社JOINX・NPO法人 新しい公共のカタチthe Fourth・関東経済産業局よろず支援拠点コーディネーター、③人：商工会議所青年部・関東経済産業局よろず支援拠点コーディネーター、④行動契機：ビジネスプラン発表会（社会デザイン協会）・商工会議所青年部、⑤アプリ開発：株式会社リコー、株式会社オプティム

取組に関連するホームページのURL：<https://esd.university/>